

優秀賞 低学年の部

ばあちゃんのやさしさにありがとう

茨城県

桜川市立紫尾小学校 三年

山中 寧々

「ねねちゃんお帰り。」いつもの角で、ばあちゃんがニコニコ顔でまわってしてくれます。わたしはばあちゃんが見えるとれつをぬけ出して走って行きたくなります。

わたしのおばあちゃんは六十一才です。わたしと弟は「ばあちゃん」とよんでいます。わたしはばあちゃんの初まごです。ばあちゃんはいつもわたしを「かわいい、かわいい。食べちゃおうかな。」と言います。わたしが生まれた時、ばあちゃんはあまりにうれしくて、生まれたばかりのわたしの写真を色々な人に見せていたとパパが言っていました。わたしは「もう、ばあちゃんたらつ」とはずかしくなつたけど、でも、本当はともうれいしです。

ママが仕事をしているのでわたしはばあちゃんとするす番をしています。下校の時の自けい団ではない日もばあちゃんはいつも近くの角でまわってしてくれます。暑い日は顔を真っ赤にしながら、さむい日は手をハアハアとあたためながらまわってしてくれます。に物が多い日は、「重かつた。」とすぐに物を持ってくれます。さむい日は、「さむかつた。」とほつたをなでてくれます。夏の日は帰るとつめたいタオルで顔や体をふいてくれます。わたしがいない時もわたしの事を考えて、用意してくれただと思うとすごくうれしくなります。

そうやっていつもやさしくしてくれるのに、私は時々文句を言ったりします。つかれていたり宿題がたく山あるとばあちゃんに八つ当たりしてしまいます。この間もせっかくばあちゃんがつくってくれたおやつを「これじゃいやだ。」と言って買ったおやつを食べました。「そっか……じゃ、すきな食べな。」と言ったけど少しさみしそうな顔だったのでむねがズキンとしたけど、「ごめんね」と言えませんでした。その事を後で知ったママは、「ママは小さい時いつもカギっ子だったから、いつも近くにばあちゃんがいたらよかつたのにな」って思ってた。だれかが帰りをまわってくれる事はすごく幸せな事なんだよ。文句を言う前にありがとうでしよ。」とわたしをおこりました。心の中ではあちゃんのさみしそうな顔がうかんで、なみだが出そうになりました。

もうすぐ二学期が始まります。きつとまた毎日ばあちゃんはその角でまわってしてくれます。時々文句を言ってしまう時もあつたかもしれないけど二学期からは「ただいま」の次に「今日もまわってくれてありがとう」と言おうと思います。

ばあちゃんのおかげでねねはさみしくなないよ。ばあちゃんいつもありがとう。